

## 小・中学校総合的な学習の時間

### 1 小・中学校総合的な学習の時間の指導と評価について

#### (1) 学習指導要領の目標と内容について

##### ① 目標の改善

ア 総合的な学習の時間の目標は、「探究的な見方・考え方」を働かせ、総合的・横断的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指すものであることを明確化した。

イ 教科等横断的なカリキュラム・マネジメントの軸となるよう、総合的な学習の時間の目標を設定するに当たっては、各学校における教育目標を踏まえて設定することを示した。

##### ② 内容の改善

ア 「目標を実現するにふさわしい探究課題」「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」を設定すること。

イ 他教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用すること。

ウ 教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成すること。

エ 体験活動、地域の教材や学習環境を積極的に取り入れること等は引き続き重視すること。

#### (2) 総合的な学習の時間における主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

##### ① 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

年間や、単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、児童生徒や学校、地域の実態等に応じて、児童生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習や児童生徒の興味・関心に基づく学習を行うなど創意工夫を生かした教育活動の充実を図ること。

「年間」

総合的な学習の時間の特質による固有のものであり、総合的な学習の時間の第1の目標で示された「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力」は、年間や単元など内容や時間のまとまりを見通した授業の積み重ねによって総合的に育成されていくことを意味している。

「探究的な見方・考え方」

各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けることである。

「創意工夫を生かした教育活動の充実」

児童生徒や学校、地域の実態に応じて、それぞれの学校にふさわしい教育活動を適切に実施することが重要である。

##### ② 創意工夫を生かすとは

他校にはない特殊なもの、独創性の高いものを行うことが求められているわけではない。児童生徒や学校、地域の実態に応じて、それぞれの学校の児童生徒にふさわしい教育活動を適切に実施することが重要である。特に、教師の地域の実態把握が欠かせない。

##### ③ 目標を実現するにふさわしい探究課題

目標を実現するにふさわしい探究課題とは、目標の実現に向けて学校として設定した、児童生徒が探究的な学習に取り組む課題であり、従来「学習対象」と説明してきたものに相当する。目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などのことであり、以下の三つの要件を兼ね備えることが求められる。

ア 探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること。

イ その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと。

ウ その課題を学ぶことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結び付いていくような資質・能力の育成が見込めること。

##### ④ 解説総合的な学習の時間編における「深い学び」

「深い学び」については、探究的な学習の過程を一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる。

ア 探究的な学習の指導のポイント ～学習過程を探究的にすること～

- ・ 課題の設定：体験などを通して、課題を設定し課題意識をもつ。
- ・ 情報の収集：必要な情報を取り出したり収集したりする。
- ・ 整理・分析：収集した情報を、整理したり分析したりして思考する。
- ・ まとめ・表現：気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

- イ 探究的な学習の指導のポイント ～他者と協働して主体的に取り組む学習活動にすること～
- ・ 多様な情報の収集：情報の多様さと多さは整理や分析を質的に高める。
  - ・ 異なる視点から検討：異なる視点や異なる考えた方があることの方が深まる。
  - ・ 地域の人と交流、友達と一緒に学習：共に学ぶことが個人の学習の質を高め、同時に集団の学習の質も高める。

### (3) 総合的な学習の時間における単元づくり

- ① 学校として既に十分な実践経験が蓄積され、毎年実施する価値のある単元計画が存在する場合でも、改めて目の前の児童生徒の実態に即して、単元づくりを行う必要がある。
- ② 三つの視点から、中心となる活動を思い描く。
  - ア 児童生徒の興味・関心：児童生徒にとって切実な、関心や疑問を出発点とすることで、児童生徒の主体的な活動が保障できる。
  - イ 教師の意図：教師の願いを出発点とすることで、探究課題を通してどのようなことを学ばせたいのか、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を明確にした単元構想が可能となる。
  - ウ 教材の特性：教材（学習材）とは、児童生徒の学習を動機付け、方向付け、支える学習の素材のことである。教材の特性を出発点とすることで、どのような課題の解決や探究的な学習活動を行うことができるか、明確に見通すことができる。その際、横断的・総合的な学習になるように意識することが求められる。

### (4) 総合的な学習の時間における指導と評価の一体化

- ① 「内容のまとめ」をもとに、単元全体を見通して、単元の目標を作成する。単元目標は、箇条書きで複数個示す方法もある。
- ② 「内容のまとめごとの評価規準」をもとに、具体的な学習活動から目指すべき学習状況として児童生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。
- ③ 評価規準を作成する際には、単元で行う学習活動やどのような資質・能力を重視するかによって具体的に記述することが求められる。「単元の評価規準」の指導計画への位置付けについては、総括的な評価を行うためにも、児童生徒の姿となって表れやすい場面、全ての児童生徒を見取りやすい場面を選定することが大切である。

## 2 小・中学校総合的な学習の時間における1人1台端末の活用について

探究的な学習過程においては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信するなどの学習活動が行われるように工夫すること。その際、コンピュータで文字を入力するなどの学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるよう配慮すること。（その際以降は小学校についての記述）

- ① ICT活用の特性・強味（「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ）
  - ア 多様で多量の情報を収集、整理・分析、まとめ、表現することができ、カスタマイズが容易であること。
  - イ 時間や空間を問わずに音声・画像・データ等を蓄積・送受信でき、時間的・空間的制約を超えること。
  - ウ 距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができるという、双方向性を有すること。
- ② 学習の質を高めるポイント
  - ア 課題の設定・・・グローバルな課題、ローカルな課題、情報の蓄積による個に応じた課題設定が可能。
  - イ 情報の収集・・・多様な情報、多量な情報、最新の情報、加工しやすい情報を、いつでも、どこでも素早く、手軽に調査し収集することが可能。
  - ウ 整理・分析・・・デジタルデータを検索、分析するなどして情報を再構成したり、プログラミング的思考を育成したりすることが可能。
  - エ まとめ・表現・・・校内のみならず、国内外への多様な発信、手軽な制作と加工の繰り返し、成果物の継続的な蓄積が可能。

## 3 参考となる資料等について

- (1) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校総合的な学習の時間（国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月）
- (2) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校総合的な学習の時間（国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年7月）
- (3) 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 小学校編（文部科学省 令和3年3月）
- (4) 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 中学校編（文部科学省 平成22年11月）
- (5) NHKの学校放送番組「ドスルコスル」